



Title	スワヒリ&アフリカ研究 第37号 執筆要項/執筆例
Author(s)	
Citation	スワヒリ&アフリカ研究. 2026, 37
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104457
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

『スワヒリ&アフリカ研究』 執筆要項

1. 内容

論文、研究ノート、資料、書評、報告など。

2. 掲載の可否

論文については、査読を経たうえで、編集委員会が掲載の可否を決定する。

その他については、編集委員会で検討した上で、可否を決定する。

3. 原稿の形式

1) A4 のワープロ原稿、20 頁以内に収める。

2) 余白設定： 上・右・左余白 25mm、下余白 30mm に設定。

3) 字数の設定： 1 行 42 字、1 頁 33～35 行に設定。

4) 題名、氏名、所属などの書き方は、次頁の【執筆例】を参照のこと。

5) 文字の種類と大きさ

- ・ 全角文字は明朝体、半角文字は Times New Roman。

- ・ 題名の和文は 14 ポイント、題名の英文、副題および氏名は 12 ポイント、本文は 11 ポイント。

- ・ 見出しはゴシック体で 12 ポイント、小見出しはゴシック体で 11 ポイント。

- ・ 注は脚注とし、脚注番号は半カッコつき、脚注内の文は 10 ポイント。

6) 参考文献の記載例

Heine, Bernd, Derek Nurse (eds.) (2000) *African Languages - An Introduction*, Cambridge : Cambridge University Press.

Mwansoko, Hermas J.M. (2004) “Kiswahili intellectualization efforts in Tanzania”, *Journal of Asian and African Studies*, 67: 151-162.

Polomé, Edgar C. (1980) “The language in Tanzania”, in: E. C. Polomé & C. P. Hill (eds.) *Language in Tanzania*, Oxford: Oxford University Press, pp.3-25.

Welmers, Wm. E. (1973) *African Language Structures*, Berkeley : University of California Press.

竹村景子、小森淳子 (2009) 「スワヒリ語の発展と民族語・英語との相克」、梶茂樹、砂野幸稔 (編) 『アフリカのことばと社会』東京：三元社、pp. 385－418.

宮本正興 (2014) 『評伝グギ・ワ・ジオンゴ 修羅の作家 現代アフリカ文学の道標』、東京：第三書館.

米田信子 (2008) 「母語は「使いたい言語」か？ — ナミビアの多言語状況と言語権」、『言語』37(2): 40-45.

4. 原稿の提出締め切りは、毎年 10 月 31 日（翌年 3 月発行予定）。

原稿はメールに添付して編集委員会まで送付する。アドレス：swahiliandafrica@gmail.com

【執筆例】

日本におけるスワヒリ研究について (14 ポイント)

－ 現状と展望 － (12 ポイント)

On the Swahili Studies in Japan: Current Status and Issues (12 ポイント)

スワ希里 語郎*

Swahili Goro

(12 ポイント)

0. はじめに (12 ポイント)

スワヒリ語は、現代世界において使用人口（約7千万人）¹⁾、使用地域（国語・公用語とする東アフリカ3か国を中心に十数か国の隣接地域）、またそこから由来する大きな国際性²⁾と重要性を有するにもかかわらず、・・・ (11 ポイント)

1. 日本におけるスワヒリ研究の現状 (12 ポイント)

日本におけるスワヒリ研究の拠点としては、・・・

1.1. 研究機関 (11 ポイント)

日本の大学で、学部レベルからスワヒリ語を専攻することができるのが、(11 ポイント)

書式設定

上余白 25.0mm

左右余白 25.0mm

下余白 30.0mm

1行字数 42字

1頁行数 33～35字

(原稿は20頁以内におさめる)

* 大阪大学大学院人文学研究科教授 (Graduate School of Humanities, Osaka University) (10 ポイント)

¹⁾ ただし、この中で母語話者が占める割合は十数パーセントにすぎない。

²⁾ アフリカ連合 (AU) の公用語の一つであり、また欧米やアジア諸国の放送機関でスワヒリ語放送をおこなっているところも多い。